

取締役会長メッセージ

真の取締役会の実効性とガバナンスの品質は、 企業価値向上への基盤である

コーポレートガバナンス・コードが施行されてから5年が経ち、日本国内における企業ガバナンス改革は、株主価値の持続的向上の実現に向けて、取締役会のさらなる実効性を追求する段階にあると認識しています。当社は、監査役会設置会社の方式のもと、迅速かつ果敢な意思決定による「攻めのガバナンス」を追求し、参入業界におけるグローバル水準の高い収益性と資本効率の向上を目指すとともに、経営の透明性、公正性を確保するため「守りのガバナンス」の強化にも取り組んでいます。

2020年3月期は、前期に引き続き、取締役会で審議される議案以外の広範囲な重要課題についても取締役・監査役で討議する場を多々設けました。グローバル拠点を含む当社グループを対象に、コーポレートガバナンスの強化はもとより、リスクマネジメント、コンプライアンスを一体としたワールドクラスのGRC(ガバナンス、リスクマネジメント、コンプライアンス)体制の構築が必須課題であるとの認識のもと、今後の取り組みについて重点的に議論しました。また、中期的な視点において、中期経営計画の財務モデルの達成に向けた進捗や課題を共有し、さらに長期的な視点において、当社の強みを生かせる事業領域と進むべき方向性の検討、非財務価値として重要性が増しているESG、SDGsなどのCSRに関する取り組みについても活発に議論しました。「経営戦略およびビジョンを示すこと」、「戦略的な方向性を踏まえた重要な業務執行の決定をおこなうこと」という取締役会の役割をいっそう高めるため、引き続き中長期的な成長への議論を継続していきます。

経営の透明性、公正性の向上への取り組みにつきましては、前期は報酬委員会の委員長を社外取締役とし、独

立性をさらに高めました。また、取締役会の構成につきましては、ジェンダー面での多様性が進展した他、社外取締役の適切な比率について討議しました。今期は、米国生命保険会社の経営者である米国籍のチャールズ・ディトマース・レイク二世氏、高収益で著名な(株)キーエンスにて長年社長を務められた佐々木道夫氏、そして世界経済フォーラムの日本代表である江田麻季子氏らに引き続き社外取締役として助言いただくとともに、社外監査役についても、新たにグローバル資本市場での幅広い知見を有する濱正孝氏と、企業法務を中心に弁護士として豊富な経験を有する三浦亮太氏に就任いただき、監査機能をさらに強化してまいります。6名の社外役員を含む取締役・監査役計16名が当社らしさを強く意識しつつ、多様な見識、経験に基づき自由闊達で建設的な議論をおこない、取締役会の実効性をさらに高めていきます。

IoT、AI、5Gの普及に加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響によりテレワークやオンライン会議などの利用が進み、データ・ネットワークの重要性が増しています。それら新たな日常や業務形態を支える半導体・FPDの重要性はさらに高まっており、当社が参入する製造装置の市場も引き続き成長が見込まれます。拡大する市場において、持続的成長と中長期的な企業価値向上の実現に貢献すべく、取締役会長として日々邁進してまいります。



取締役会長
常石 哲男

